

平成29年度第1回青梅市協働事業市民推進委員会議事録

平成29年5月9日

災害対策本部室

出席委員8人、欠席委員2人

1 委嘱状交付

榎戸部長より交付

2 部長あいさつ

榎戸部長

3 自己紹介

自己紹介

4 委員長選出

川崎委員

5 職務代理者氏名

池永委員

6 報告事項

(1) 青梅市協働事業市民推進委員会について

事務局より報告

(2) 青梅市市民提案協働事業について

事務局より報告

(3) 平成29年度市民提案協働事業応募状況について

事務局より報告

委員長：サマーフェスタ実行委員会は、どのような団体か。

事務局：以前に開催していた河辺のふれあいまつりの有志のメンバーである。1年前から実行委員会を立ちあげている。

委員長：幾代会はどのような活動をしているのか。

事務局：梅の公園ボランティアなどを行っている。

7 協議事項

(1) 市民提案協働事業審査員の選出について

川崎委員長、臼井委員、伊藤委員、木崎委員

8 その他（意見交換）

委員：市民センターは11か所あり、地域の拠点になっている。貸館業務だけでなく、ボランティアセンターのように団体の育成

を行なうなど、機能を大きくする必要もあるのでは。

委員：市民センターは、以前は事業を展開し、それがグループ化していたが現在は、貸館業務が強くなった。

事務局：市民センター改革で、事業は社会教育課となり、市民センターでバラつきはあるが。市民センターは地域の特性を活かしたもののだけ行うようになった。

委員長：「ありがとう市民会館」を開催していたときに、以前利用していた人が、時間があるから来たという人がいてこのような場所も必要と感じた。

事務局：センターで似たような教室があり、センター改革となった。センターの特色を活かした事業をやっていくことになったが、自治会を振興するなど地域支援に重点を置くようになった。以前は、自主グループを育てていくこともあった。

委員長：若い人の市民活動、ボランティア活動はどうか。

委員：夏体験ボランティアの参加をみても、若い人は忙しいようである。

委員：ボランティアを取り除いてやってみるといいのでは、若い人が若い人に呼び掛けて自分たちも楽しみながらできるといい。

委員：世代で違いがある。20代、30代はSNSを使うなどスピード感がある。

委員長：市民が積極的にまちづくりに参加できるにはどうしたらいいかを形にし、提案を協働事業市民推進会議にしてもよいのでは。